

OPEN CAMPUS

淑徳大学東京キャンパス

2023年度

体験授業 テーマ一覧

人文学部 表現学科



○内容は変更になる場合がございます。○体験授業への参加はオープンキャンパスの事前予約が必要となります。

日付	担当講師	テーマ	概要
6/25 日	 白寄 まゆみ	「言語表現 『呼び方にはルールが 存在する?!』」	幼いころから今まで、自分の母親をどのように呼んできたか? 『ママ』『お母さん』『お袋』『母親』となぜ変化するのか? NHKの「チコちゃんに叱られる」でも取り上げられた「呼び方のルール」の謎を明らかにします。
7/23 日	 中野 正昭・山下 悟	「演劇ワークショップ ～本読み体験～」	演劇の稽古には、全員で台本を読み合わせながら内容を把握したり、人物の気持ちを考えたり、場面の詳細を理解する「本読み」という基礎作業があります。本授業では演劇集団円・演出部所属で、本学兼任講師の山下悟先生指導による本読みを実践します。演劇経験者はもちろん、「演劇発表会」に不安を感じる演劇未体験の人もぜひ参加してみてください。
	 横手 拓治	「少年ジャンプ ～北斗の拳から 呪術廻戦まで」	1968年に4番目の少年週刊マンガ誌として創刊され、「友情・努力・勝利」のコンセプトでマンガ文化の中心誌となった『少年ジャンプ』。長期連載「ワンピース」をはじめ、「約束のネバーランド」「鬼滅の刃」「呪術廻戦」等人気作を次々と生み出し、現在でもアクチュアルな存在であり続けている。本講はその特徴と魅力を探る。
8/6 日	 杉原 麻美	「人を惹きつける物語 & キャラクターの秘密」	あなたはどんな物語に感動し、どんなキャラクターに惹かれますか? 人間の脳が「物語」を求める背景や人気キャラクターの特徴について考え、人の心を動かすストーリーの本質を探りましょう。
	 田中 則広	「19世紀末の作品に見る 映像の歴史」	19世紀末にフランスのリュミエール兄弟が映画を上映して以来、映像作品の魅力を追求するために、様々な編集技法が確立されてきました。この授業では、リュミエール兄弟が製作した実写商業映画の中から、『工場の出口』（1895年公開）、『ラ・シオタ駅への列車の到着』（1895年公開）、『水をかけられた散水夫』（1896年公開）、『日本の剣士』（1897年公開）といった作品の紹介を通じて、映像の歴史を振り返ることにします。

8/27



横手 拓治

**「日本マンガ・アニメ、
世界への普及」**

- *マンガ・アニメが世界の隅々で認知され、受け入れられていく過程をお話します。
- *アメリカ・ヨーロッパ・アジアに分け、国や地域ごとの人気作品を紹介します。
- *AKIRAや宮崎アニメの影響力など個々のテーマも取りあげます。

9/10



田中 則広

**「1900年前後の作品
に見る映像の歴史」**

フランスの映画監督、ジョルジュ・メリエス(1861-1938)。彼は奇才のマジシャンでもありました。草創期の映画に魅了されたメリエスは、ある時、マジシャンとしての力を発揮して、様々なトリックを用いた映像作品の製作に乗り出します。この授業では、メリエス監督の作品『ゴム頭の男』(1901年公開)、『月世界旅行』(1902年公開)などの作品を紹介しながら、映像の歴史を振り返ります。

2024年

3/24



小川 博章

「深読み日本昔話」

昔話の「桃太郎」は、桃太郎が鬼を退治するお話ですが、なぜ「桃」なのでしょう。「ミカン太郎」や「リンゴ太郎」ではいかがでしょう。そもそも「鬼」とは何でしょう。登場人物を深読みしたり、時代背景を確認することで昔話の楽しさを再確認したいと思います。